

## 1. 略歴

- 1984年3月 東京大学教養学部教養学科第2・ドイツの文化と社会卒業  
1986年3月 東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻修士課程修了  
1986年 ロータリー財団奨学生としてドイツ連邦共和国ミュンヘン大学留学（～1988年）  
1991年4月 共立女子大学国際文化学部専任講師  
1992年 ドイツ学術交流会（DAAD）奨学金によりドイツ連邦共和国マンハイム大学留学（～1993年）  
1996年4月 共立女子大学国際文化学部助教授  
2001年 アレクサンダー・フォン・フンボルト財団研究奨学金によりドイツ連邦共和国ベルリン自由大学研究滞在（～2002年）  
2002年4月 慶應義塾大学文学部助教授  
2005年4月 慶應義塾大学文学部教授  
2007年4月 慶應義塾大学大学院文学研究科委員兼任  
2011年4月 東京大学文学部・大学院人文社会系研究科教授（現職）  
2013年9月 文化技術研究・メディア哲学国際研究コレク（IKKM）上級フェローとしてドイツ連邦共和国ヴァイマル市研究滞在（～2014年3月）

## 2. 主な研究活動

### a 専門分野

ドイツ近現代文学

### b 研究課題

ヴァルター・ベンヤミン研究、ハインリッヒ・フォン・クライスト研究

### c 概要と自己評価

ベンヤミン研究は、同時代の作家フーゴ・フォン・ホーフマンスタールやエルンスト・ユンガーらの、いわゆる保守革命運動との関係を考察する作業を進めている。科研費による研究プロジェクトに関しては、「情動と技術の人間学的考察」（2013～2015年度）、「抗争」言説の再検討（ドイツ文学の場合）（2016～18年度）に引き続き、「ドイツ文芸における「古典」概念の再検討」（2019年度～）を進め、内外の研究者との議論を行っており、「国語」の規範性とその解体に関する論文「『国語』形成の一断面」を共編著『ノモスとしての言語』に発表した。クライスト研究としては、編著『ハインリッヒ・フォン・クライスト―「政治的なもの」をめぐる文学』（2020.3）を上梓し、導入、論文と重要論考の翻訳を掲載した。「双務的秩序」の喪失と回復の試みとしてドイツ文学を読み直す試みは継続中である。また、ドイツ・メディア論の重要著作であるフリードリヒ・キッター『書き取りシステム 1800・1900』を翻訳し上梓した。さらに、近代文芸における「供儀」の変容をテーマとした国際学会（ハーゲン大学主催）に基調報告者として招待され、リモートにて発表を行なっている。

### d 主要業績

#### (1) 著書

共編著『ハインリッヒ・フォン・クライスト ―「政治的なもの」をめぐる文学』、インスクリプト、2020.3  
共編著『ノモスとしての言語』、ひつじ書房、2022.5

#### (2) 論文

「『ペンテジレアー』―「政治的なもの」と「愛」」、『ハインリッヒ・フォン・クライスト ―「政治的なもの」をめぐる文学』、79-111 頁、インスクリプト、2020.3  
"Von kokugaku zur Japanischen Romantik"、Jahrbuch für Internationale Germanistik. JG LII / Heft 2、185-210 頁、Bern (Peter Lang)、2020  
「『国語』形成の一断面」、『ノモスとしての言語』、7-39 頁、ひつじ書房、2022.5

#### (3) 書評

磯崎康太郎、香田芳樹、『晩年のスタイル 老いを書く 老いて書く』、松籟社、『週間読書人』、2020.7.3  
田中純、『デヴィッド・ボウイ 「無」を歌った男』、岩波書店、『週刊読書人』、2021.3.26

(4) 学会発表

国際、OMIYA, Kanichiro, "Hofmannsthals Opferdiskurs im Gespräch über Gedichte und in der Elektra", Opferdramaturgie nach dem bürgerlichen Trauerspiel. Zur Viktimologie der Geschlechter in Drama, Libretto und Prosa-19. Jh. bis zur Gegenwart, Regionalzentrum Berlin der FernUniversität in Hagen, 2021.10.9

(5) 翻訳

個人訳、Gerhard Neumann, "Das Stocken der Sprache und das Straucheln des Körpers. Umriss von Kleists kultureller Anthropologie", 大宮勘一郎, 「口ごもる言葉と躓く身体 クライストの文化的人間学概要」、『ハインリッヒ・フォン・クライスト — 「政治的なるもの」をめぐる文学』, 191-218 頁、インスクリプト、2020.3

共訳、Werner Hamacher, "Das Beben der Darstellung. Kleists Erdbeben in Chili", 「描出の揺らぎ—クライストの『チリの地震』」、『ハインリッヒ・フォン・クライスト — 「政治的なるもの」をめぐる文学』, 219-282 頁、インスクリプト、2020.3

共訳、Friedrich Kittler, "Aufschreibesysteme 1800・1900", 大宮勘一郎・石田雄一, 『書き取りシステム 1800・1900』, インスクリプト、2021.5

**3. 主な社会活動**

(1) 他機関での講義等

非常勤講師、慶應義塾大学、東京外国語大学